

2015/12/29 京都の米軍基地(85): 米軍「参加」テロ対策発足  
2015/12/28 大統領の政治利用と権威失墜  
2015/12/27 愛国者必読: 施光恒『英語化は愚民化』  
2015/12/26 ネパール式パーキンソンの法則, オリ巨大内閣  
2015/12/25 オリ内閣拡大, 困ったときの椅子頼み  
2015/12/22 ネ政府閣議決定を歓迎, 印政府  
2015/12/21 カトマンズの東芝広告  
2015/12/19 街角の露店  
2015/12/18 幸福之遊  
2015/12/17 中国貿易展  
2015/12/14 文化の交差する交差点の文化  
2015/12/12 カドガ・KC 著「丸山真男と近代日本の政治思想」  
2015/12/11 京都の米軍基地 (84) : 司令官交代  
2015/12/10 「夫婦別姓」最高裁判決を前に  
2015/12/09 ネパールの屋外広告: アサが来る  
2015/12/08 カトマンズの壁画: 寺院  
2015/12/07 カトマンズの壁画: 広告  
2015/12/06 カトマンズの壁画: 悲しそうな仏様  
2015/12/05 カトマンズの壁画: 自由奔放  
2015/12/04 カトマンズのミロ  
2015/12/03 壁画芸術: ラクスマン・シュレスタ  
2015/12/02 マイナンバーはゼアナンバー, 頻繁変更を  
2015/12/01 啓蒙壁画のユーモア

## 京都の米軍基地(85): 米軍「参加」テロ対策発足

「京丹後テロ対策ネットワーク」が12月18日, 京丹後市警察において設立され, そこに米軍も「参加(take part in)」していた。具体的なことは何もわからないが, 設立総会に米軍が参加していたことからして, 米軍が京丹後の今後のテロ対策において重要な役割を果たすことになるのはまず間違いないとみざるをえない。



■経ヶ岬米軍 FB12月21日



■京丹後市日米友好協会 FB12月18日

日

テロ対策は、すでに京都でも具体策がいくつか策定されている。産経新聞はこう報道している。

#### 京都をテロから守れ 官民連携の組織発足 「監視の目を張り巡らす」

来年5月[の]伊勢志摩サミットや2020年の東京オリンピックを見据え、京都府警などは23日、府内で発生するテロへの対策を進めるための官民連携組織「京都テロ対策ネットワーク」を発足させた。……

ネットワークには、府警や府、京都市、海上保安庁、JR西日本など約40団体約80人が参加。設立総会では、府警警備1課の担当者が国際会議を狙った海外の事例や、府内で起こる脅威、抑止の具体的方策などについて説明。「関係機関が連携しテロへの監視の目を張り巡らすことが必要」と強調した。(産経新聞 2015.10.24)



■京都府警 HP

この京都のテロ対策において京都府警が重視しているものの一つが、京丹後市の米軍 X バンドレーダー。府警は次のように述べている。

#### 「京都平安策 2016」の策定について(通達)

我が国では、2016年伊勢志摩サミット、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控える中、世界有数の国際観光都市である京都は、これら機会を捉えた国際

テロの標的となるおそれも排除できず、また、**京丹後市に設置された米軍Xバンドレーダー基地(米軍経ヶ岬通信所)の運用に反発している極左暴力集団等によるテロ、ゲリラ事件の発生も懸念される**ところである。(2015年11月制定、赤強調引用者)

京丹後では、基地交付金で住民監視カメラが市内要所に設置された。そして、今度は、米軍の参加をえて「テロ対策ネットワーク」が設立された。目もくらむような急展開。これから先、基地の町、京丹後はどうなるのだろうか？

谷川昌幸(C)

2015/12/29 at 20:02 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#) Tagged with [テロ](#), [監視カメラ](#), [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [Xバンドレーダー](#), [京丹後](#)

## 大統領の政治利用と権威失墜

バンダリ大統領が12月16日、UDMF(統一民主マデシ戦線)の反対を押し切り、強引にジャナクプルを訪れ、ジャナキ寺院を参拝したため、大混乱となり、大統領としての権威を大きく損なうことになってしまった。(大統領はヘリでカトマンズ-ジャナクプル往復。)



श्रीमती विद्यादेवी भण्डारी  
सम्मानजनक राष्ट्रपति



■ 大統領とジャナキ寺院(大統領府 HP,

12月28日)

ネパール憲法(2015年9月20日公布施行)は、大統領について、次のように定めている。

- ・大統領(रास्ट्रपति)は、ネパールの国家元首(राष्ट्राध्यक्ष)。
- ・大統領には、憲法の「遵守・擁護(पालन र संरक्षण)」義務がある。
- ・大統領は、「国家統一(राष्ट्रिय एकता)」を促進。
- ・大統領は、原則として内閣の同意と勧告に基づき行為する。

・大統領は、連邦議会議員（および州議会成立後はその議員）から構成される選挙人団により選出。

・大統領の任期は5年。

ネパールの大統領は、国家元首としての「権威」は持つが、実質的な「権力」の行使はできない。いわゆる儀式的大統領制である。

ところが、その大統領が12月16日、地元住民の反対を無視し、ジャナクプルのジャナキ寺院訪問を強行した。お伴は、R.チェトリ軍総監、GD.ヤダブ副議長、RK.スツバ土地改革相、K.ヤダブ議員（NC）ら。警備には、国軍、武装警察、警察、中央調査局などが大量動員された。



REGIMENTARY  
GENERAL, NEPAL ARMY  
CHIEF OF THE ARMY STAFF  
NEPAL 2073



■国軍総監／中央調査局

この大統領の国民統合の象徴らしからぬ振る舞いに対し、UDMF や地元住民は烈火のごとく怒った。主な理由は、以下の通り。

(1)政府要人、憲法賛成署名議員らのジャナクプル訪問には絶対反対を宣言していた。

(2)寡婦の寺院参拝は不浄として禁止されている。（大統領の夫は故マダン・バンダリ）

(3)犬が近づいた花を献花した。（治安要員が警備犬多数を寺院内に入れていた。）

(4)治安要員が革靴を履いたまま寺院内に入った。

大統領一行は、黒旗の抗議を受け、火炎瓶や石を投げつけられた。ジャナキ寺院付近は治安部隊との衝突で大混乱に陥り、インド人参拝者を含む数十人（60名以上？）が負傷した。

このジャナクプル事件につき、オリ内閣のパンディ大臣が12月20日、反政府派の「無秩序で乱暴な行為」を非難した。「国民統一の象徴にして憲法の擁護者たる大統領に対するそのような誤った行為は、国家全体、民主主義、共和制に対する攻撃である。」（\*7）

さらにオリ首相自身も、「犯人たちを法の裁きに服させるためのあらゆる手段をとる。だれであれ、信仰を理由に攻撃されてはならず、大統領の信仰も非難攻撃されてはならない」と、一段と強い調子で宣言した（\*1）。

しかし、このマデシ非難は、いささか政治的に過ぎる。そもそも、国民統合の象徴としての大統領を、地元の激しい反対運動を無視して派遣したのは、「同意と勧告」を与える内閣である(内閣の明示の意思表示がなくとも、あったものと理解されねばならない。)内閣は「権威」とは区別されるべき「権力」を行使するのであり、したがって「権威」を担う大統領のこのような露骨な「政治的利用」は厳に避けるべきである。

政治において権威と権力を分離するのは、本質的に弱く邪悪な人間が、自らの限界を自覚しているからである。それは人間の政治的慎慮(prudence)といってもよい。

歴史的にみると、権威の源泉ないし根拠は、多くの場合、血統、すなわち王制や天皇制であった。これは神話的・神秘的であり不合理だが、それゆえ権威への人為的恣意的介入を許さず、かえって強力であった。弱い人間からなる政治共同体の統合の権威的象徴としては、よくできている。これとは対照的に、民主的大統領制には、そのような人為的介入を許さない神話的・神秘的な権威の根拠がない。民主的大統領制は、成熟した強い自律的市民の存在を前提としており、その運用は権威的王制よりもはるかに難しいといわざるをえない。

もしそうだとするならば、世界で最も民主的な共和制憲法を制定したネパールであればこそ、大統領の権威をよくよく尊重し、その政治的利用は厳に慎まなければならない、ということになるであろう。



■オリ首相

#### 【参照】

- \*1 Christopher Sharma, "Nepal's tribal block President from entering Hindu temple: She is a widow," *Asia News*, 12/24/2015
- \*2 "Morcha announces fresh protests," *Nepali Times*, December 18th, 2015
- \*3 "UDMF 'CLEANSES' JANAKI TEMPLE AFTER WORSHIP BY 'WIDOW PREZ'," *Republica*, 18 Dec 2015
- \*4 SURESH YADAV, "PROTEST AGAINST PREZ BHANDARI'S VISIT DISRUPTS RAM JANAKI MAHOTSAV," *Republica*, 16 Dec 2015
- \*5 "Madhesis target President," *Nepali Times*, December 16th, 2015
- \*6 "Protests, clashes mar President's Janakpur visit," *The Himalayan Times*, December 17, 2015
- \*7 "Govt endorses three-point roadmap," *The Himalayan Times*, December 21, 2015

2015/12/28 at 18:27 カテゴリー: [憲法](#), [民主主義](#) Tagged with [ジャナキ寺院](#), [マデシ](#), [大統領](#), [権力](#), [権威](#)

## [愛国者必読: 施光恒『英語化は愚民化』](#)

日本の英語化は、安倍政権と財界の共通の教育目標である。日本社会の英語化によって、安倍首相は「美しい日本」を取り戻そうとし、日本財界はグローバル競争に勝ち抜こうとしている。

単に口先だけではない。安倍首相は国連演説など機会あるごとにカタカナ英語(米語)で演説し失笑を買っているし、企業独善経営者たちも英語社内公用語化で社員の面従腹背を招いている。

小学生にもわかることだが、敵性言語の使用によって日本国の「美しい伝統」が取り戻せるはずはなく、また日本企業が「日本」企業でありつつ他国企業との競争に有利となることもない。日本の英語化は、英語帝国主義(English Imperialism)への日本の卑屈な自発的従属であり日本の英語植民地化に他ならない。

このことを明快な日本語で的確に指摘し警鐘を鳴らしているのが、この本:

▼施光恒『英語化は愚民化 日本の国力が地に落ちる』集英社新書, 2015  
書名にも、著者の危機感がよく表れている。少々過激と感じられるかもしれないが、議論はきわめて合理的であり、説得力がある。(要旨下掲表紙カバー参照)

想像もしてみよ。自分が日々聞き話し、読み書きし、そして考えるその言葉によって、すなわち自分自身の母語によって、自分が生まれてから死ぬまで、生活のあらゆる場で、文化的に、社会的に、政治的に、そして経済的に差別される日が来ることを! それは、第二の自然となってしまった構造的差別、ないし宿命的「言語カースト制」といってもよいであろう。

むろん、この本にも、触れられていない論点がいくつかある。そのうち最も重要なのが、現在の日本語(標準語)も、日本各地の様々な地域言語(いわゆる方言)を権力的に弾圧禁止することによって人為的に創り出された「国語=国民語=国家語」であるということ。



この国家公認「国語」による地域言語弾圧, すなわち「標準語化」政策は, 本書で批判されている「英語化」と, 論理的には同じものだ。したがって, 「英語化」政策批判は, 「国語化」政策に対する自己批判を踏まえたものでなければならない。

本書では, おそらく新書ということもあって, 日本自身の国語化政策, 標準語教育への自己批判は, 割愛されている。そのことさえ踏まえておけば, 本書は, 水村美苗『日本語が亡びるとき: 英語の世紀の中で』(筑摩書房, 2008)とともに, 日本の愛国者がいまひもとくべき必読書の一つといってよいだろう。

【参照】[書評:水村美苗『日本語が亡びるとき』 英語帝国主義 安倍首相の国連演説とカタカナ英語の綾 安倍首相の怪著『美しい国へ』](#)



英語化を進める大学に巨額の補助金を与える教育改革から、英語を公用語とする英語特区の提案まで。日本社会を英語化する政策の暴走が始まった。英語化推進派のお題目は国際競争力の向上。しかし、それはまやかした。

社会の第一線が英語化されれば、知的な活動を日本語で行ってきた中間層は没落し、格差が固定化。多数の国民が母国語で活躍してこそ国家と経済が発展するという現代政治学の最前線の分析と逆行する道を歩むことになるのだ。「愚民化」を強いられた国民はグローバル資本に仕える奴隷と化すのか。気鋭の政治学者が英語化政策の虚妄を撃つ! [本書表紙カバーより]

谷川昌幸(C)

2015/12/27 at 13:09 カテゴリー: [経済](#), [言語](#), [教育](#), [文化](#), [本](#) Tagged with [英語帝国主義](#)

[ネパール式パーキンソンの法則, オリ巨大内閣](#)

オリ首相は 25 日, 前日に引き続き, 分割による省増設を断行した。巨大内閣 40 大臣の処遇のためらしい。猫の目改編のため正確には追いきれないが, 24~25 日の分割再編は次のようなものらしい。

▼省の分割再編(12月25日現在, 省の総数 31)

- ・農業開発省 ⇒⇒ 農業開発省 + 畜産開発省
- ・通商・供給省 ⇒⇒ 通商(供給)省 + 供給省
- ・保健・人口省 ⇒⇒ 保健(人口)省 + 人口・環境省
- ・都市開発省 ⇒⇒ 都市開発省 + 上水・衛生省

これは, 英政治学者 CN.パーキンソンの唱えた「パーキンソンの法則」のネパール版といってもよい。やらなければならない仕事は増えもしないのに, 放っておけば, 役所や役人は増えていく, ということ。

ネパール憲法では, 先述のように, 大臣は 25 人以内と明確に規定されている。これは, つい数か月前, オリ首相をはじめとする現議員自身が圧倒的多数をもって制定した憲法ではないのか。

ネパール最高裁は, 日本の最高裁より, はるかに積極的だ。訴えが出されれば, 最高裁が巨大内閣を違憲と判断することは, まず間違いないであろう。



谷川昌幸(C)

2015/12/26 at 12:01 カテゴリー: [行政](#), [議会](#), [政党](#) Tagged with [Oli](#), [Parkinson](#), [内閣](#)

## [オリ内閣拡大, 困ったときの椅子頼み](#)



大臣の椅子(ポスト)は、ネパールでも、日本など他の国と同様、政権維持のための、最も頼りになる手段だ。イザとなると、憲法規定も必要性もそっちのけで、大臣ポストが大判振る舞いされる。

いまオリ内閣は、マデシ反憲法闘争とそれに伴う「非公式経済封鎖」により窮地にある。マデシ要求を呑まなければ、「非公式経済封鎖」による石油・ガスなどの物資不足は長期化する。呑めば、今度は、マデシ以外の民族や社会諸集団が激しく反発する。二進も三進もいかない。

そこで、オリ首相は12月24日、いつもの手、大臣ポスト追加配分に踏み切ったのだ。新任大臣と拡大後のオリ内閣の構成は、以下の通り。

#### ▼新任大臣(4)

D・ボハラ(RPP):労働雇用大臣

PB・シン(社会人民解放党):上水・衛生大臣

SL・タパ(人民解放党):科学技術大臣

E・ダカール(家族党):無任所

#### ▼新任国務大臣(6, 全員 UML, 無任所)

D・バンダリ, MK・チョーダリ, DC・ヤダブ, NP・マガル, BB・マハト, DN・サハ

#### ■拡大後のオリ内閣(与党:UML,UCPN-M, RPP-N ほか 12 党)

大臣 40(首相1, 副首相6, 大臣 21, 国務大臣 10, 副大臣2)

内閣について、現行 2015 年憲法は、次のように規定している。

**憲法第 76 条(9) 大統領は、首相の推薦に基づき、包摂原理に則り選ばれる 25 人以内の連邦議会議員からなる大臣会議[内閣]を組織する。**

(原注)本条でいう「大臣」は、副首相、大臣、国務大臣および副大臣を含む。

[訳注]大統領 रास्ट्रपति 首相 प्रधानमन्त्री 大臣 मन्त्री 国務大臣 राज्य मन्त्री 副大臣

सहायक मन्त्री

オリ首相は、今回、いくつかの省を分割した。必要に迫られてというより、大臣の椅子を増やすためだと批判されている。また、無任所大臣もいっぱい。とくに新任国務大臣は全員 UML で、無任所。今後、具体的な担当任務が割り当てられるかどうか、不明。

このような省庁の分割や無任所の手を使えば、大臣はいくらでも増産できる。憲法の規定など、知ったことではない。ありがたい包摂民主主義の呪文を唱えさえすれば、

憲法規定の州区画だろうが、大臣定員だろうが、たちどころに死文化されてしまうらしい。



谷川昌幸(C)

2015/12/25 at 19:40 カテゴリー: [行政](#), [議会](#), [憲法](#), [政党](#) Tagged with [Oli](#), [内閣](#)

## [ネ政府閣議決定を歓迎, 印政府](#)

インド外務省は、12月21日付声明において、ネパール政府の閣議決定(20日)を「歓迎する」と公式に宣言した。

印外務省声明によれば、カマル・タパ副首相兼外相が印外相に公式に伝えたのは、次のような内容の閣議決定。

- (1)国家諸機関への比例的包摂参加と人口数に基づく選挙区画定を実現するための憲法改正。
- (2)コンセンサスに基づき州区画を見直すための憲法改正。
- (3)話し合いとコンセンサスに基づく市民権問題の解決。(筆者補足:これにも憲法改正必要。)

印政府は、このようなネ政府閣議決定を「歓迎し」、そして、それらの決定が実行され、ネパールが正常な状態に復帰すれば、「二か国間の障害なき交易のための環境が創り出されるであろう」と宣言している。

たしかに、もしこのネ政府閣議決定が実行されるなら、タライ紛争は収束に向かい、「非公式経済封鎖」も解除されるであろう。しかしながら、閣議決定されたとされる3つの事柄は、いずれも憲法の根幹にかかわる重要問題であり、実行には大きな困難が予想される。UML,UCPN-M,RPP-Nの与党3党でさえ、足並みは必ずしもそろってはいない。マデシ系諸党も一枚岩ではない。

閣議決定の実行期限は、一応、3か月がめどとされている。振出しに戻ったに近いような難しい憲法問題が、本当に、わずか3か月で解決できるのか？ それとも、この閣議決定も、またもや苦し紛れの問題解決先送りにすぎないのであろうか？

क्र.सं.	नाम	हस्ताक्षर
1	श्री. श्री. अजय कुमार शिंदे	
2	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
3	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
4	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
5	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
6	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
7	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
8	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
9	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
10	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
11	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
12	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
13	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
14	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
15	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
16	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
17	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
18	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
19	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
20	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
21	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
22	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
23	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
24	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
25	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
26	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
27	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
28	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
29	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
30	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
31	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
32	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
33	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
34	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
35	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
36	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
37	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
38	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
39	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
40	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
41	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
42	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
43	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
44	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
45	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
46	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
47	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
48	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
49	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	
50	श्री. श्री. अशोक चव्हाण	

■ 憲法案賛成議員署名

谷川昌幸(C)

2015/12/22 at 21:33 カテゴリー: [インド](#), [憲法](#), [民族](#) Tagged with [マデシ](#), [経済封鎖](#), [連邦制](#), [包摂](#)

## [カトマンズの東芝広告](#)

これは、ニューロード近くの商店街路地の東芝広告。蜘蛛の巣配線に、ほこりまみれの古い看板。洗濯機と冷蔵庫の宣伝だ。

既視感を禁じえない。日本の僻地に行くと、古い薬や農機具や家電などの広告が残っていることがある。日本で、そうした広告を見た時と同じような懐旧と哀愁のないまぜになったような思いに、ここカトマンズでも、しばしとらわれたのだ。

しかし、カトマンズの東芝広告については、懐旧よりも哀愁の感の方が強い。東芝の対ネ販売戦略には、以前から違和感を感じていた。数年前、あるいはもう少し前、東芝の電気洗濯機の宣伝を付けた移動式道路標識が、カトマンズ市街に大量に設置されたことがあった。(以前、コメントを描いたが、リンク切れで所在不明。見つかったら追加します。参照:[トリチャンドラ校前の信号機](#))

カトマンズは、万年、電力、水不足。現在は、1日10時間停電。これでもまし。雨期はまだ先であり、さらに停電時間が伸びることは避けられない。水はもっと深刻。金持ちは水商売業者からタンクローリーで水を買ひ、貧乏人は水場を探し、多少遠くても、多少汚くても、それを汲んでこざるをえない。そんなカトマンズで、貧乏人相手に電気洗濯機の大宣伝をする——その感覚がどうにも理解できなかったのだ。

下掲の看板では、電気洗濯機に加え、冷蔵庫も宣伝されている。こちらも電力浪費家電。最近ではかなり増えたが、それでも冷蔵庫がぜいたく品であることに変わりはない。この宣伝看板が設置されたころは、いま以上に、一部特権階級だけのものだったはずだ。

そんな「反人民的」「反庶民的」な商品を、電気も水もないカトマンズで庶民向けに大宣伝する。たしかに、需要がないところで、需要を人為的に創り出すのが資本主義には違いない。それはそうだが、素人目には、どう見てもズレているというか、浮いているというか、そんな違和感を禁じえなかったし、いまも禁じえない。金儲けも、センスがなければ、成功はおぼつかないのではないだろうか。



谷川昌幸(C)

2015/12/21 at 11:49 カテゴリー: [ネパール](#), [社会](#), [経済](#) Tagged with [電力](#), [資本主義](#), [東芝](#), [水](#), [水道](#)

## [街角の露店](#)

これは、カトマンズ・アサンの近くの街角の露店。ここには伝統的なレンガ造りの家屋やレンガ敷きの路地がまだ残っている。隣の家はつかい棒で支えられているが、この古い建物は、幸い、無事だったようだ。

しかし、こうした伝統的な生活や風景にとって、避けたくても避けられないのが、鉄則としての近代化。いかなネパールといえども、自然災害としての震災は克服できても、快樂と効率をエンジンとして容赦なく進行する生活全般の近代化には抵抗できないであろう。

歴史法則は、やはり在るのではないか？



谷川昌幸(C)

2015/12/19 at 16:58 カテゴリー: [ネパール](#), [社会](#), [経済](#), [文化](#), [旅行](#) Tagged with [カトマンズ](#), [近代化](#)

## 幸福之游

ネパールでは、中国人観光客・旅行客が激増している。しかも、ピチピチ、シャキシャキの若者が多い。そこで、こんな看板も出されることになる。

### 幸福之游

さすが文字文化大国。面白い表現だ。中国の人々は、若者ですら、どこに在っても悠々泰然と幸せに遊ぶらしい。うらやましい。





谷川昌幸(C)

2015/12/18 at 20:14 カテゴリー: [ネパール](#), [文化](#), [旅行](#), [中国](#) Tagged with [漢字](#)

## 中国貿易展

カトマンズの法学部・言語学部前を歩いていたら、向かいに派手な宣伝看板が出ていた。

### **ネパール・中国チベット経済貿易展 2015**

さっそく中に入ってみると、ブリクティマンドゥップの会場もなかなか派手。展示は衣料、雑貨、食品が中心だが、中央には、ピカピカのバイク「珠峰」号も数台、展示してあった。

中国の対ネ輸出も、いずれこのようなバイクや車などの工業製品に比重を移していくであろう。航空機ですら、小型機商談は早や中国製中心となりつつある。日の丸 MRJ は、ネパールでは(そして他の途上国でも)、お呼びではないということになりそうだとぶん。







谷川昌幸(C)

2015/12/17 at 20:40 カテゴリー: [ネパール](#), [経済](#), [中国](#) Tagged with [チベット](#), [貿易](#)

## 文化の交差する交差点の文化

ネパールで興味が尽きないのが、交差点。人や車が行き交い、文化が交差し、新たな文化が生まれる。下掲は、ディリバザール西出口。これぞ、ネパール現代文化の華。見飽きない。



■ディリバザール西出口。バグバザール側より。



■ 蜘蛛の巣配線, 消灯信号, 作動中(?)の監視カメラ／風力国旗ワイパー付ソーラーパネル

谷川昌幸(C)

2015/12/14 at 19:42 カテゴリー: [文化](#), [旅行](#) Tagged with [ソーラー](#), [交差点](#), [信号機](#)

## [カドガ・KC 著「丸山真男と近代日本の政治思想」](#)

Khadga K.C., "[MARUYAMA MASAO AND MODERN JAPANESE POLITICAL THOUGHT](#)," [International Journal of East Asian Studies](#), Vol.4, No.1,2015,pp.27-34.

Maruyama Masao is one of Japan's influential political thinkers of the twentieth-century. This article attempts to briefly discuss Maruyama Masao's thoughts on Japanese political engagement by focusing on the intellectual and psychological causes of Japan's political ambitions over the years. Maruyama Masao commented on numerous issues like the intellectual history of Tokugawa Japan, theory and psychology of ultra-nationalism and reflections on Article IX of the Japanese Constitution. Maruyama's modern thought helped the Japanese understand their role in nation building and the importance of preserving peace at all cost. The paper concludes that Maruyama's political thoughts are still relevant in this day and age.

丸山真男が、急激な近現代化の諸矛盾に苦しむネパールにおいて注目され始めた。

「近現代化」とは、文字通り「近代化」と「現代化」の二重の課題を同時に遂行せざるを得ないということ。つまり、一つは、前近代的封建社会を解体して自由・平等・独立の諸個人を析出し、その諸個人から民主的な主権的国民国家を構築するという近代化の課題。もう一つは、理論的仮設としては可能であっても実際には解体しきれない文化的諸集団（民族集団、言語集団、宗教集団など）の諸要求を国家社会に取り入れるべきだという現代的な包摂民主主義の課題。

この「近代化」と「現代化」は、欧米では数世紀かけて、日本でも百数十年かけて、段階的に進行してきた。ところが、ネパールでは、これら相矛盾するところの多い「近代化」と「現代化」の二つが、ほぼ同時に、急激に、進行し始めた。これがいかに困難であり、多くの深刻な軋轢を生み出すかは、想像に難くない。

そうしたネパールの苦しみについて、欧米諸国は極めて鈍感であり、「近代化」をすっ飛ばし、一気に「現代化」をせよと無理難題を押し付け、様々な圧力をかけている。無責任極まりない。（単線的歴史発展論は、いまどき流行らないが、ここではあえて近代化抜きでの現代化の危険性を強調しておきたい。）

むろん、ネパールにとっても「現代化」は避けられないし望ましくもあるが、しかし、ネパールにはネパール固有の事情がある。「近代化」は欧米にとっては過去のことかもしれないが、ネパールにとってはまだまだ追求し実現されるべき課題である。ネパールは、「現代化」を受け入れるためにも、その前提となる「近代化」について、もっと注目し、研究し、少なくともその最も基本的な諸原理だけは社会においてある程度実現しておく必要がある。

こうした観点からすると、カドガ・KC氏のこの論文は、大いに注目に値する。丸山真男こそ、欧米に遅れて近現代化した——その意味でネパールの近現代化の参考になり得る——日本を理論的に鋭く分析し、その問題点と課題を最も明晰に示してくれた20世紀日本の政治学者だからである。

カドガ氏の論文は、おそらくネパール初の学術的な丸山研究であろう。これを契機に、丸山がネパールにおいて注目され、さらに研究が進められていくことを期待している。

#### ▼論文抜粋(pp.33-34, 改行追加引用者)

「戦前日本のファシズムないし超国家主義を厳しく批判した丸山のような自由主義思想家たちが育成した社会意識こそが、憲法第9条の擁護を可能としたのだ。

ところが、残念なことに、安倍首相の指導の下に、第9条の解釈が今年半ばに変更されてしまった。

日本国憲法そのものは何ら改正も変更もされていないのに、第9条の解釈変更により、日本はいまでは集団的自衛権を行使できるようになり、武力紛争当事国を積極的に支援できることになった。

換言するなら、安倍首相は、丸山が生涯をかけて反対し闘ってきたこと、すなわち日本の軍事防衛政策を正常化することに、成功したのである。」



■カドガ・KC氏 ([同氏 FB](#))

谷川昌幸 (C)

2015/12/12 at 21:31 カテゴリー: [ネパール](#), [軍事](#), [平和](#), [憲法](#), [民主主義](#) Tagged with [現代化](#), [近代化](#), [Khadga K.C.](#), [包摂民主主義](#), [多文化主義](#), [丸山真男](#)

## [京都の米軍基地\(84\)：司令官交代](#)

米軍経ヶ岬基地で10月23日、司令官交代式が行われた。初代オルブライト少佐に代わり第2代司令官に就任したのは、サラ・E・カルデナス(Sara E. Cardenas)少佐。前任地は横須賀。

前司令官のオルブライト少佐は、基地新設ということもあって、人当たりのよい、外向的な軍人であった。機会あるごとに気さくに出かけ、ネットで積極的に情報を流し、新聞にもよく登場した。さすが米軍、よい人選だ。

これに比べ、後任のカルデナス少佐は、いまのところ内向きで、サービス精神に欠ける。ネット情報もごくわずか。略歴は、ネットによると、次の通り。

### 学歴

American Military University; Master's degree, Space Studies. 2009–2012

Embry-Riddle Aeronautical University; Bachelor of Science, Aerospace, Aeronautical and Astronautical Engineering. 1995–1999

### 職歴

Commander, 14th Missile Defense Battery. 2015年10月–現在

Liaison Officer to USFJ, 94th AAMDC. 2014 年 8 月-2015 年 10 月

Plans Officer, 32d AAMDC. 2014 年 3 月-2014 年 6 月

カルデナス司令官は、大学・大学院で宇宙・航空分野を専攻しているので、Xバンドレーダーを含め、この分野の専門家には違いない。が、それ以外のことはよくわからない。

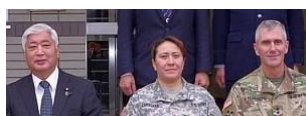
このような内向きの軍事技術専門家が司令官となったとすると、米軍経ヶ岬基地は、いよいよそれ本来のマル秘基地としての本領を発揮し始めるだろう。住民にとって、米軍基地はますます得体のしれない陰鬱で危険なブラックボックスのようなものとなり、米軍人・軍属との深刻な軋轢も増えていくだろう。「原住民」など、基地米軍の眼中にはない。

丹後を含め日本はどこでも、米軍にとっては極めて居心地のよいところだ。世界一安全だし、思いやり予算で贅沢三昧できるし、万が一、事故を起こしても逃げ得の奥の手が使える。そんな日本から米軍が基地を撤去するのは、よほどのこと。まずありえない。いったん設置したら、おしまい。どうにもならない。沖縄を見よ、一目瞭然ではないか。

早や既成事実となってしまった米軍基地——今後の抵抗は、この厳しい現実を見据えることから出発せざるをえないだろう。



■カルデナス司令官(経ヶ岬米軍 FB)



■経ヶ岬米軍 FB2015 年 12 月 22 日[追加 2016-1-5]



■経ヶ岬米軍 FB2016 年 1 月 4 日[追加 2016-1-5]

2015/12/11 at 13:50 カテゴリー: [軍事](#) Tagged with [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [Xバンドレーダー](#), [京丹後](#)

## 「夫婦別姓」最高裁判決を前に

最高裁大法廷は、12月16日午後、夫婦同姓を定めた民法750条の違憲訴訟に対する判決を下す。おそらく選択的夫婦別姓を認めるものとなるだろう。この問題については、すでいくつか議論をした。以下、ご参照ください。(古い資料のためリンク切れなどがあります。ご了承ください)

【参照】⇒⇒⇒⇒[「夫婦別姓」リンク\(谷川\)](#)

### ▼[別姓パスポートを取ろう!](#)

夫婦別姓パスポートを取得した。結婚改姓後、戸籍名パスポートを使用してきたが、国際化とともに不便さがつのり、通称名表記に切り替えた。別姓パスポートは、正式の制度であり、取得手続きは簡単だ。通称名使用の事実を示す資料と、別姓パスポートの必要 …



### ▼[別姓クレジットカードを作ろう!](#)

通称名で生活していると、クレジットカードも通称名のものが必要になる。たとえば、通称名で会員登録をしている場合、会費支払いは通称名でないと、面倒だ。別姓クレジットカードを作り、普及させよう!



### ▼[住基ネット—夫婦別姓で笑殺](#)

住民基本台帳ネットワークの危険性は自明であり、多言を要しない。あのペンタゴンでさえハッカーに侵入された。総務庁の防衛力はペンタゴン以上か? また、公務員



不祥事は枚挙にいとまがない。権力乱用はある、というのが、健全な政治の …

▼[夫婦別姓パスポートはネパールで](#)[PDF]

某地獄耳情報によると、夫婦別姓パスポートは、旅行者でも在外大使館(在ネパール日本大使館など)で比較的簡単に取得できるそうだ。日本国家は、明治以降、家制度を天皇制国家の基礎 …

▼別姓・公文書でも旧姓表記！

[旧姓使用許可書\(長崎大\)](#), [長崎大学における旧姓使用\(2002\)](#)

▼[合憲判決](#)(12月17日追加)

最高裁大法廷は12月16日、民法750条の夫婦同一姓規定を合憲と判断した。理由は、(1)姓の選択は当事者夫婦の自由であること、(2)夫婦同一姓は「社会的に定着」していること、(3)旧姓通称使用の広がりにより改姓の不利益を一定程度緩和できること。

この判決は、「夫婦同姓」規定を違憲とまでは言えないと判定し、選択的夫婦別姓制度にするか否かは国会で決定すべき事柄だという立場をとっている。最高裁のこれまでの憲法判断に対する慎重な、あるいは消極的な、いや臆病な姿勢からすれば、さもありません、といったところ。

夫婦同一姓の法的強制に対しては、「市民的抵抗」を継続強化し、対抗すべきであろう。結婚改姓をした夫または妻が、別姓のパスポート、クレジットカード、ポイントカードなどを最大限保有し続け、また新たに作成し、そして生活の他のあらゆる場面においても別姓を最大限使用する。そうすることによって、夫婦同一姓を骨抜きにし、法的強制を事実上不可能としてしまうのだ。

夫婦別姓を市民的抵抗により「社会的に定着」させてしまう。そうすれば、臆病最高裁をまつまでもなく、国会が民法改正に向かうであろう。

谷川昌幸(C)

2015/12/10 at 11:21 カテゴリー: [憲法](#), [人権](#) Tagged with [名前](#), [夫婦別姓](#), [市民的抵抗](#), [最高裁](#), [人格権](#)

[ネパールの屋外広告：アサが来る](#)

ネパールには、原色の赤と濃紺がよく似合う。これはメガ銀行と、その前面道路側の震災復興キャンペーン。

この銀行の建物は、以前はたしか英国文化会館。2階建てだったとおもうが、記憶違いかもしれない。いずれにせよ、なかなか趣がある。向かいは、これまた伝統的な選管の建物。隣は、およそ非文化的なアメリカンクラブ。英米といっても、文化的には大違いだ。

道路側は震災復興を願う「希望(アサ)の壁」。これは、「ベルリンの壁」、「イスラエル分離壁」などとは正反対。ネパールでは、壁には、レンガ造りの建物のように、目標に向け一つ一つ積み重ねていくという、積極的な意味もあるようだ。



谷川昌幸(C)

2015/12/09 at 15:09 カテゴリー: [ネパール](#), [文化](#) Tagged with [デザイン](#), [震災](#), [広告](#)

## カトマンズの壁画：寺院

ティンクネ～マイティガル道路の拡幅近代化のためマイティガル手前の丘が削り取られ、大きな壁ができた。ここに描かれたのが、この寺院。

壁は巨大だし、前景は超近代的ソーラー街路灯付き高規格道路。舞台装置は申し分ないが、作品はいまいち。文字遊びの「Let's stART」も、遊びきれていない。空間ができるのと埋めたくなくなる心理はわからないではないが、広ければ広いほど、使い方は難しくなるようだ。



ここは、強引な拡幅工事により1階部分が削り取られた家が頑張っているところ。この家は、本格的な補修が行われていたので、このまま存続することになるのだろう。こちらの方がシュールであり、作品としては面白い。



【参照】 [国土改造ブームのネパール 震災なきがごときカトマンズ](#)

谷川昌幸(C)

2015/12/08 at 08:36 カテゴリー: [ネパール](#), [文化](#) Tagged with [絵画](#), [壁画](#)

## [カトマンズの壁画： 広告](#)

マウンテンバイク(山岳自転車)とクリニック(医院)の広告壁画。なかなかセンスがよい。組み合わせの妙と、伝統的な広場を前景としているので、余計そう感じるのかもしれないが。



谷川昌幸(C)

2015/12/07 at 08:39 カテゴリー: [ネパール](#), [文化](#), [旅行](#) Tagged with [絵画](#), [壁画](#)

## [カトマンズの壁画： 悲しそうな仏様](#)

ここはよく通ったが、このような仏画には全く気付かなかった。古そうに見えるが、震災後に描かれたのだろうか？





この仏様は、悟りからほど遠い、現世の人のような、悲しそうな表情。背景は爆撃、前景は破壊のようにも見える。半年前の生々しい地震の傷跡もあちこちに残っている。手練れの作とは思えないが、それでもなかなか興味深い。



■ 近くの美術学校

谷川昌幸(C)

2015/12/06 at 09:38 カテゴリー: [文化](#) Tagged with [絵画](#), [壁画](#), [仏画](#)

## [カトマンズの壁画：自由奔放](#)

これは、モモとチャイを注文したら、[燃料不足のためコーラとパンを勧められた屋上茶店](#)の向かいのビルの大きな壁画。少々古く消えてしまった部分もあるが、それでも残った部分だけでもなかなか愉快。路地奥であり、どの通りからも見えない。いったい誰が、何の目的で、こんな絵を壁に描いたのだろうか？



谷川昌幸(C)

2015/12/05 at 10:39 カテゴリー: [文化](#), [旅行](#) Tagged with [絵画](#), [壁画](#)

## カトマンズのミロ

カトマンズには、こんな「芸術的」な壁画もある。ミロ原画の模写なのか、ミロ風の創作かは素人の私にはわからないが、カトマンズの街にはよく似合っており、違和感はない。近くに芸術学部があるので、先生か学生が描いたのかもしれない。



谷川昌幸(C)

2015/12/04 at 11:14 カテゴリー: [文化](#), [旅行](#) Tagged with [絵画](#), [壁画](#)



## 壁画芸術: ラクスマン・シュレスタ

今回、カトマンズの街中で見た壁画のうち、最も洗練されていたのが、この作品。



これは力作だなと思い、写真には撮ったが、だれが、いつ、何の目的で描いたのかは、その時はわからなかった。後でよく見ると、描いたのはラクスマン・シュレスタだということだけはわかった。ネット情報によると、彼の略歴は、以下の通り。

### ラクスマン・シュレスタ (Laxman Shrestha)

・1939年、シラハ生まれ。インドのビハール州ダルバンガで育つ。絵が好きで絵画を学ぼうとしたが、両親は、絵を描くのは下層カーストの仕事だとして猛反対。そのため、家を出て絵画を学ぶ。

・パटना大学卒業

・1957-62年、ムンバイの Sir JJ School of Art で学ぶ。ゴッホに魅せられる。

・奨学金を得て仏英留学

1964-7 Ecole National Supérieure des Beaux Arts, Paris; The Académie de la Grande Chaumière, Paris

1970 Central School of Art & Craft, London

・ムンバイを本拠に制作活動。年数回ネパール訪問。日本を始め、世界各地で展覧会開催。「インドで最も高く評価されている画家のひとり。」



Laxman Shrestha  
アーティスト

ラクスマンは、ネパールのシラハ生まれだが、インドで育ち、本拠はムンバイ。「インドの画家」というべきかもしれないが、ネパールへの思いは強く、こんなことも語っている。

「私はネパールに来る必要があります。家族に会うためというより、わたしにはネパールの人々とふれあい、共に生きることが必要なのです。また私には、ヒマラヤを感じ取ることも必要です。私は、いつもヒマラヤを描き、これを通して、私が求め見つけたものを描こうとしています。」(Chirag Bangdel & Dinesh Rai, "The Master & His Landscapes: Laxman Shrestha," Jul.14.2010, <http://ecs.com.np/features/the-master-his-landscapes-laxman-shrestha>)

谷川昌幸(C)

2015/12/03 at 17:57 カテゴリー: [文化](#) Tagged with [ラクスマン・シュレスタ](#), [絵画](#)

## [マイナンバーはゼアナンバー, 頻繁変更を](#)

### 1. 米語帝国主義への積極的従属

「マイナンバーのお知らせ」が届いた。売国的にして噴飯もの。表紙を見ると、文章中の主要単語はすべて敵性言語たる米語を日本語読みし、カタカナ表記したものだ。

■ **マイナンバー, カード, メリット, コンビニ, サービス, セキュリティ, システム**

日本語は、これらの宗主国言語の隙間を埋める補助言語として、お情けで使用されているに過ぎない。米語帝国主義への日本語の卑屈にして「[積極的\(proactive\)](#)」な従属。(参照: [英語帝国主義](#) [日本語が減びるとき](#))



## 2. ゼアナンバーとしてのマイナンバー

周知のように、日本政府は、本音をごまかすとき、好んでカタカナ米語を使用する。政府や政治家のカタカナ米語を見聞きしたときは、まず眉に唾をつけ、なぜ日本語を使用しないのか、その隠された意図を探るべきである。マイナンバーもその典型。

マイナンバーは「私の番号」ではなく、カタカナ米語に正確に翻訳すれば、「ゼアナンバー(彼らの番号)」である。ゼイ(彼ら)が、ゼアのメリット(利益・利便)のため国民にナンバー(番号)を割り振った。だから、その本質は「ゼアナンバー」。

このゼアナンバーは、いずれコンビニエンス(利便)とセキュリティ(安全・治安)のため官民の各種サービス(業務)とリンク(連結)され、このままでは国民はもはやゼアナンバー・カード(彼らの番号札)なくしては一日たりとも生きてはいけなくなるであろう。

しかも、この彼らの言う「マイナンバー」は、12 桁もある。とうてい、覚えられない。が、そうかといって、個人番号付きの「マイナンバーカード」をつくり、持ち歩けば、危険きわまりない。さて、どうすべきか？

## 3. コロコロ頻繁変更

マイナンバーは本質的にゼアナンバーだから、マイ(私)のものではなく、私には不要。通知カードはすぐ破り捨てるべきだ。ゼイが必要とするときは、ゼイ(市役所など)に問い合わせれば、それで済む。そうすれば、万が一、悪用されても、その責任はすべて私ではなくゼイ、あるいはマイナンバー利用企業等の側にあることになる。

あるいは、それでも不安なら、すぐナンバー変更を申請すればよい。たとえば、

- ・他人に見聞きされたかもしれないとき。
- ・勤務先等のナンバー管理に不安を感じたとき。
- ・金融機関、通販、小売業者など、民間企業に漏れていると感じたとき。
- ・ネットに漏れているのではと感じたとき。
- ・監視カメラ映像と関連付けされていると感じたとき。
- ・その他、不安を感じたとき。

マイナンバーは本質的にゼアナンバーだから、管理責任はあげて政府にある。そして、国民には、少しでも不安を感じたら、いつでもナンバー変更を申請し、変更させる自由＝権利がある。**ココロと変えてよいマイナンバー！**

そもそも現代のこの情報化社会において、マイナンバーのような便利な「個人識別番号」が漏れ、利用され、流用され、悪用もされるであろうことは、火を見るよりも明らかだ。だとしたら、国民としては、自分の番号をココロ変える以外に、取り得るよい自衛手段は他にはないであろう。

なお、以上のことは、内閣府 HP や様々な報道から導き出した一つの仮説にすぎず、まだ実証はされていません。真偽のほどは、それぞれ各自で、慎重に検証し、ご確認ください。

**【参照】**内閣官房「社会保障・税番号制度とは」(赤強調引用者)

**Q2-5** マイナンバー(個人番号)は希望すれば自由に変更することができますか？

**A2-5** マイナンバーは原則として生涯同じ番号を使い続けていただき、自由に変更することはできません。ただし、**マイナンバーが漏れいして不正に用いられるおそれがあると認められる場合**に限り、本人の申請又は市町村長の職権により**変更することができます**。(2014年6月回答)

**Q4-1-1** 民間事業者もマイナンバー(個人番号)を取り扱うのですか？

**A4-1-1** 民間事業者でも、従業員やその扶養家族のマイナンバーを取得し、給与所得の源泉徴収票や社会保険の被保険者資格取得届などに記載して、行政機関などに提出する必要があります。また、証券会社や保険会社が作成する支払調書、原稿料の支払調書などにもマイナンバーを記載する必要があります。(2014年6月回答)

**Q4-1-3** マイナンバー(個人番号)を使って、従業員や顧客の情報を管理することはできますか？

**A4-1-3** ……法律や条例で定められた手続き以外の事務でも、個人番号カードを身分証明書として顧客の本人確認を行うことができますが、その場合は、個人番号カードの裏面に記載されたマイナンバーを書き写したり、コピーを取ったりすることはで

きません。(2014年6月回答)

Q4-1-4 マイナンバー(個人番号)を取り扱う業務の委託や再委託はできますか？

A4-1-4 マイナンバーを取り扱う業務の全部又は一部を委託することは可能です。また、委託を受けた者は、委託を行った者の許諾を受けた場合に限り、その業務の全部又は一部を再委託することができます。……(2014年6月回答)

谷川昌幸(C)

2015/12/02 at 15:19 カテゴリー: [社会](#), [経済](#), [人権](#) Tagged with [プライバシー](#), [マイナンバー](#), [管理社会](#), [個人番号](#)

## 啓蒙壁画のユーモア

壁があると、何か描きたくなるのが人間の習性らしく、ココネパールでも、様々な絵やイラスト、スローガンや落書きなどが描かれている。これもその一つ。「明日のために、もっと働け」といった趣旨の啓蒙壁画のようだが、なかなかユーモラス。さて、これで額に汗となるのかな？







■ 製作者名らしいが、詳細不明。

谷川昌幸(C)

2015/12/01 at 15:27 カテゴリー: [ネパール](#), [社会](#), [文化](#) Tagged with [イラスト](#), [スロ](#)  
[ーガン](#), [絵画](#), [落書き](#), [壁画](#)